

Oracle® DIVAdirector

インストールガイド

Release 5.3

E71115-02

2016 年 3 月

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使ったことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
対象読者	5
ドキュメントのアクセシビリティについて	5
関連ドキュメント	5
表記規則	5
1. 概要	7
1.1. インストールの準備	8
2. Oracle DIVAdirector ソフトウェア	11
2.1. DIVAdirector の前提条件	11
2.2. DIVAdirector 5.3 の新機能と拡張機能	13
3. システムのインストール	15
3.1. システムの配備計画	15
3.2. 最小システム構成	15
3.3. 新しいシステムへのインストール	16
3.4. オプションの手動調整	19
3.4.1. DIVAdirector データベースファイルを再配置する	20
3.4.2. ネットワーク接続ストレージ (NAS) をプロキシファイルスト レージフォルダに使用する	21
3.4.3. ネットワーク接続ストレージ (NAS) をバイナリストレージに使 用する	22
3.5. DIVAdirector 4 から DIVAdirector 5.3 へのアップグレード	22
4. DIVA Transcode Service	25
4.1. 概要	25
4.2. Web 構成ファイル	26

4.3. Windows サービス	26
4.4. データベース設定	30
4.4.1. トランスコード設定	30
4.4.2. プリセット	30
4.4.3. ロケーション	31
4.5. API エンドポイント	31
4.5.1. 例 1	32
4.5.2. 例 2	33
4.5.3. 例 3	33
 5. ShuttlePro V2 または ShuttleXpress コントロールパッドのインストールおよび構成	 35
 用語集	 37
 索引	 39

はじめに

このドキュメントでは、基本的なシステム機能と、Oracle DIVAdirector 5.3 をインストールするための詳細な手順について説明します。

対象読者

このドキュメントは、Oracle DIVAdirector システムを最初にインストールして構成するシステム管理者を対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

詳細は、DIVAdirector ドキュメントセット内の次のドキュメントを参照してください。

- *Oracle DIVAdirector* リリースノート
- *Oracle DIVAdirector* セキュリティーガイド
- *Oracle DIVAdirector* 管理者ガイド
- *Oracle DIVAdirector* ユーザーガイド

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用しています。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、または本文や用語集で定義された用語を示します。

表記規則	意味
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

第1章 概要

Oracle DIVAdirector は、Oracle DIVArchive 7.3 以降のシステムのためのグラフィカル ユーザーインターフェース (GUI) です。ユーザーは、Web ベースのインターフェース経由で、ネットワーク上の任意のコンピュータからリモートでビデオを検索して処理します。管理者は、ネットワークにアクセスできる任意の場所から最小限の労力でシステムおよびユーザーアカウントをモニターして維持管理します。

DIVAdirector には、Web ブラウザから HTTPS プロトコルを使用してアクセスします。Web ベースのインターフェースには次のような利点があります。

- GUI ソフトウェアのインストールは必要ありません。
- ネットワーク上のどこからでもブラウザベースの GUI にアクセスできます。
- クライアントアプリケーションの構成は必要ありません。
- クライアントの更新は必要ありません。

DIVAdirector を使用すると、次のことが可能です。:

- ファイル名、日付、カテゴリ、およびフォーマット別にビデオクリップを検索できます。
- 検索をサポートするメタデータフィールドを定義できます。
- ブール演算子および大なり小なり条件を使用できます。たとえば、ネブラスカ州とカンザス州を除く米国内の家畜のビデオクリップを検索できます。
- 見つかったクリップを組み込みのメディアプレーヤーを使用して確認します。
- 選択したフレームを抽出して関連クリップのリストに追加し、それらを編集アプリケーションに転送したり、配布用に編集したりできます。

注記:

DIVAdirector 5.3 以降のライセンスは、同時ユーザーごとではなく、ユーザーごとに付与されます。最大同時ユーザー数 (1 - 100) は、「Admin」、「System」、「Defaults」画面で特定します。

1.1. インストールの準備

Oracle デリバリーおよびインストールチームが到着するまでに、システムハードウェアのインストールと構成を完了する必要があります。IP アドレスやストレージロケーションの割り当て、ファイアウォールのポート開放、ネットワークケーブルの配線などの作業が必要です。チームが到着すると、このチームはインストールを開始する前に構成の仕様を見直して、必要なコンポーネントがすべて揃っており、アクセス可能になっていることを確認します。

設置されているハードウェアは、提供された推奨の最小ハードウェア仕様のリストを満たしているか、それを上回るものである必要があります。サーバーホストハードウェアには、Microsoft Server 2008 R2 または Windows 2012 R2 がインストールされている必要があります。

ネットワーク内で動作するようにサーバーホストコンピュータを構成し、一意でセキュアなパスワードを使用してサーバーへのアクセスを制限します。サーバーホストコンピュータに Microsoft Internet Information Server (IIS) 7 をインストールし、動作とネットワーク接続を確認します。

サードパーティーアプリケーションはすべてライセンスを受けた状態でインストールされている必要があります (たとえば、Telestream)。ストレージデバイス、ビデオサーバー、Avid Interplay (使用している場合)、Oracle SAMMA solo (使用している場合)、Microsoft Cluster Manager (使用している場合) などの IP アドレスやポート構成を含む、DIVArchive のすべての構成パラメータを設定しておく必要があります。チームは、DIVAdirector のインストール中にこの情報を参照する必要があります。

インストール中とインストール後のテスト用に、完全に動作するクライアントコンピュータを少なくとも 1 台用意しておく必要があります。クライアントコンピュータには、Microsoft Windows 7 Professional または Ultimate (32 ビットまたは 64 ビットのいずれか) Service Pack 1、または Mac OSX 10.6 (Snow Leopard) 以降のオペレーティングシステムと、次のいずれかのサポートされている Web ブラウザがインストールされている必要があります。

- Internet Explorer 7、8、または 9

注記:

互換性モードではなくネイティブモードで動作する必要があります。

- Chrome 18.0

注記:

Google Chrome では、NPAPI のサポートが終了したため、WMV および MOV クリップの再生はサポートされなくなりました。MP4 フォーマットのファイルは引き続き Google Chrome を使用して再生されます。

- Firefox 12.0
 - Safari 5.1.5
-

注記:

右側のメインウィンドウから左側のナビゲーションペインへのドラッグ&ドロップはサポートされていません。左側のナビゲーションペインとの間のドラッグ&ドロップはサポートされています。

第2章 Oracle DIVAdirector ソフトウェア

この章では、ソフトウェア全般について説明し、インストールの前提条件を示します。

2.1. DIVAdirector の前提条件

DIVAdirector サーバーには Microsoft Server 2008 R2 または Microsoft Server 2012 R2 のどちらかのオペレーティングシステムが必要です。

このサーバーは Oracle DIVArchive 6.5 以降に接続できます。次のコンポーネントを含む、DIVAdirector Server、PostgreSQL データベース、DIVAdirector をインストールします。

- DIVAdirector Web Server 5.3
- DIVAdirector Server 5.3
- DDMedia 5.3
- PostgreSQL 9.4.4

クライアントコンピュータには、Microsoft Windows 7 Professional または Ultimate (32 ビットまたは 64 ビット版) Service Pack 1 (SP1)、あるいは Mac OSX 10.6 (Snow Leopard) 以降のどちらかが必要です。ターゲットコンピュータで Windows 7 が動作しているが SP1 がインストールされていない場合は、DIVAdirector をインストールする前に、Windows Update ユーティリティーを使用してコンピュータのオペレーティングシステムを SP1 レベルに更新してください。

Windows 7 では、DIVAdirector 5.3 は次のブラウザをサポートしています。

- Internet Explorer 7、8、または 9
- Chrome 18.0
- Firefox 12.0
- Safari 5.1.5

- 。右側のメインウィンドウから左側のナビゲーションペインへのドラッグ&ドロップはサポートされていません。左側のナビゲーションペインとの間のドラッグ&ドロップはサポートされています。

Mac OSX では、DIVAdirector 5.3 は次のブラウザをサポートしています。

- Chrome 18.0
- Firefox 12.0
- Safari 5.1.5

DIVAdirector インストーラを実行する前に、コンピュータ名が設定されていることを確認します。これは重要なことです。インストールにより IIS ユーザーアカウントの権利と権限が無効になるため、DIVAdirector をいったんインストールしたあとはコンピュータ名を変更できないからです。

コンピュータのドライブおよびネットワーク接続が正しく構成されていることを確認します。ストレージロケーションには適切な権限が必要であり、ネットワークデバイスには自動的に接続するように構成されたログイン資格証明が必要です。

コンピュータの Administrator アカウントにセキュアなパスワードが設定されていることを確認します。

TeamViewer をインストールする場合は、バージョン 6 以降のみを使用し、次の手順で必要な設定を確認してください。

1. Teamviewer で、「**その他**」メニュー項目をクリックし、「**オプション**」、「**詳細**」の順に移動します。
2. 「**詳細オプションを表示**」ボタンをクリックします。
3. 画面を下にスクロールして「**詳細なネットワーク設定**」セクションを表示し、「**着信ポート80および443を使用しないでください(Webサーバのみ推奨)**」のチェックボックスを選択します。TeamViewer のバージョンによって、このオプションがある場合とない場合があります。
4. 「**OK**」をクリックして、「**オプション**」領域を終了します。

アップグレードを実行する場合は、DIVAdirector 4.1 または DIVAdirector 5.x から DIVAdirector 5.3 に直接アップグレードできます。このアップグレードは、4.1 より前の DIVAdirector リリースまたは (厳密に言えば) リリース 4.2 との互換性がありません。インストーラを使用してリリース 5.3 にアップグレードする前に、古いリ

リリースの DIVAdirector が 4.1 または 5.x にアップグレードされていることを確認してください。

2.2. DIVAdirector 5.3 の新機能と拡張機能

DIVAdirector 5.3 には、次の新機能および拡張機能が含まれています。

- 別途ライセンスを取得する必要がなくなりました。「**Defaults**」ページで同時ユーザーの最大数を設定します。
- ログのライセンス取得がなくなりました。
- ローカルアーカイブ機能が強化されました。
- 基本検索機能が強化されました。
- 新しい DIVAdirector Transcode Service が追加されました。

これらの拡張機能の詳細は、『*Oracle DIVAdirector 管理者ガイド*』を参照してください。

第3章 システムのインストール

この章では、DIVAdirector 5.3 のインストールと配備について説明します。

3.1. システムの配備計画

DIVAdirector は、同じホストにインストールされて相互に作用する 3 つの主要なコンポーネントで構成されています。

- DIVAdirector Web Server (IIS)
- DIVAdirector データベース
 - PostgreSQL DB エンジンがサービスとして実行されます。
- DIVAdirector Server
 - サービスまたはデスクトップアプリケーションとして実行されます。

オラクルでは、DIVAdirector を DIVArchive システムとは異なるホストにインストールして、両システムのパフォーマンスを向上させることを強くお勧めします。スタンドアロンシステムの場合は、それらを同じコンピュータにまとめてインストールしてもかまいません。

3.2. 最小システム構成

DIVAdirector を配備するための最小のシステム仕様は次のとおりです。

クアッドコアプロセッサ

2 GHz 以上

メモリー

4G バイト以上

ネットワーク

(1) Gb Ethernet 接続

システムドライブ

SATA、SAS、または同等のドライブを使用する 100G バイト以上のハードウェアミラー化 (RAID 1)。

プロキシおよびデータベースストレージ

SATA、SAS、または同等のドライブを使用するハードウェア RAID 5 (4 台のドライブ - 3 台 + 1 台の冗長ドライブ)。ドライブの容量は、システムのサイズによって異なります。

モデム

VPN 接続を使用できない場合は、ダイヤルインのサポートが必要です。

DVD-ROM ドライブ

8 倍速以上の DVD-ROM。CD ドライブも使用できますが、DVD が推奨されます。

電源

冗長なホットスワップ電源装置が推奨されます。

3.3. 新しいシステムへのインストール

DIVAdirector サーバーには最初に単一のプロキシドロップフォルダが構成され、これは *C:/Program Files (x86)/DIVAdirector/pdf* フォルダ (デフォルト) に置かれます。このプロキシドロップフォルダは、<ORPHAN> 設定が *C:/Program Files/DIVAdirector/proxies* フォルダを指すように自動的に構成されます。

DIVAdirector 5.3 を新しいシステムにインストールするには、次の手順を使用します。

1. インストーラを実行する前に、コンピュータ名が設定されていることを確認します。
 - これは重要なことです。インストールにより IIS ユーザーアカウントの権利と権限が無効になるため、DIVAdirector のインストール後はコンピュータ名を変更できないからです。
2. インストールの前に Windows Update サービスと Remote Registry サービスが有効になっていることを確認します。それらはインストールの完了後に無効にできます。これらのサービスは、Windows デスクトップエクスペリエンスと呼ばれる、インストーラ内のコンポーネントをインストールできるようにするために必要です。
3. インストールを開始するには、DIVAdirector インストーラをダブルクリックします。
 - 「Installation Prerequisites Warning」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして続行します。
5. 以前のバージョンの DIVAdirector 5 がインストールされている場合は、通知ダイアログボックスが表示されます。

- 以前のバージョンをアンインストールするには、「**Yes**」をクリックします。以前のバージョンを残すには「**No**」をクリックします。
6. 「**Install**」をクリックして続行します。
 - インストーラでは最初に、*Windows* デスクトップエクスペリエンスまたは *Windows Media Player* がインストールされているかどうかをチェックします。インストールされていない場合は、そのプログラムがインストールされます。インストールを続行するには、コンピュータの再起動が必要になります。
 7. コンピュータのチェック (場合により、さらに再起動) が終わると、インストーラプログラムは処理を続行します。
 8. 新規インストールを実行する場合は、「**Type of Install**」として「**Install DIVAdirector 5.3.0.x**」を選択し (これがデフォルトの選択です)、「**Next**」をクリックします。ドロップダウンリストには、使用できる各種インストールタイプオプションが含まれています。DIVAdirector 5.0 または DIVAdirector 4.1 からアップグレードする場合は、実行するインストールの種類のリストから適切なオプションを選択します。

Install DIVAdirector 5.3.0.x

これを選択すると、以前のバージョンがインストールされていない場合に新しい DIVAdirector のインストールが実行されます。

Upgrade DD4 to DD5.3.0.x

これを選択すると、DIVAdirector がバージョン 4.0 または 4.1 から DIVAdirector 5.3 にアップグレードされます。

Upgrade older DD5 to DD5.3.0.x

これを選択すると、DIVAdirector がバージョン 5.x から DIVAdirector 5.3 にアップグレードされます。

警告:

次の手順では、ネットワーク共有を使用する予定がある場合は、ネットワークにマップされたドライブを指すパスを指定しないでください。プロキシフォルダには UNC パスのみを指定できます。なぜなら、ドライブマッピングは対話型ユーザーセッションでのみ行われるものだからです。DIVAdirector Web Server サービスセッションにはこうしたドライブマッピングは存在しません。このダイアログではネットワークプロキシパスを受け入れますが、それに対応する変更を DIVAdirector Web Server サービスのユーザーアカウントに対して手動で行う必要があります。

9. プロキシフォルダのパス名を指定します。DIVAdirector 5.0 からアップグレードする場合は、このページを使用できません。

プロキシフォルダがネットワーク共有として構成される場合、ユーザーは Administrators グループに属している必要があります、さらに NAS ベースのプロキシストレージへの読み取りと書き込みの権限が付与されている必要があります。

システムが非常に大きなプロキシセットで動作することが予想される場合、Oracle では、プロキシストレージとして専用のドライブ、ローカルストレージ (RAID など)、または NAS を備えることを強くお勧めします。

10. 「**Next**」をクリックします。
11. **データベースフォルダのパス名** (このフォルダは空にする必要があります) を指定し、「**Next**」をクリックします。DIVAdirector 5.3 の旧バージョンからアップグレードする場合は、このページを使用できません。
12. データベースのバックアップおよび復元用の **データベースバックアップフォルダ** を指定し、「**Next**」をクリックします。DIVAdirector 5.3 の旧バージョンからアップグレードする場合は、このページを使用できません。
13. ユーザーによるバイナリファイルのアップロード用の **バイナリメタデータフォルダ** を指定し、「**Next**」をクリックします。DIVAdirector 5.3 の旧バージョンからアップグレードする場合は、このページを使用できません。
14. 「**Local Archive**」フィールドにソースの場所を指定し、「**Next**」をクリックします。
15. 「**Local Restore**」フィールドに宛先の場所を指定し、「**Next**」をクリックします。
16. 「**Local Metadata Drop Folder**」フィールドにローカルメタデータドロップフォルダの場所を指定し、「**Next**」をクリックします。
17. 「**SAMMA Metadata Folder**」フィールドに SAMMA メタデータフォルダの場所を指定し、「**Next**」をクリックします。
18. 「**QC Reports Folder**」フィールドに QC レポートフォルダの場所を指定し、「**Next**」をクリックします。
19. 「**DIVArchive Manager Port**」フィールド、「**IP Address**」フィールド、「**Server TCP Port**」フィールド、および「**DIVAdirector Server Proxy Drop Folder Location**」フィールドに **DIVArchive Manager 接続設定** を指定して、「**Next**」をクリックします。
20. DIVAdirector Web アプリケーションが実行されるときのローカルユーザーアカウントの **ユーザー名** および **パスワード** を指定します。複雑なパスワードが必要です。続行するには、「**Install**」ボタンをクリックします。

21. DIVAdirector Server サービスに使用するユーザーアカウントとして「**Local System**」または「**This user (DOMAIN/User)**」のどちらかを選択します。

Local System

ローカルシステムアカウントのネイティブ Windows の制限のために、DIVAdirector はローカルプロキシストレージのみの使用に制限されます。

This user (DOMAIN/User)

DOMAIN/User の形式で指定されるユーザーアカウントは、ネットワーク共有として構成されたプロキシストレージにアクセスできます。ユーザーは Administrators グループに属している必要があり、NAS ベースのプロキシストレージへの読み取りと書き込みの権限が付与されている必要があります。ドメインが指定されていないか、「.」ドメインが指定されている場合、ローカルシステムがアカウントドメインと見なされます。

22. インストーラの実行が続き、最終的に「**QuickTime Player Options**」の入力を求めるプロンプトが表示されます。プロンプトが表示されたら、「**YES**」をクリックします。
23. QuickTime プレーヤーが自動的に開始されます。インストールを続行するには、QuickTime プレーヤーのウィンドウを閉じます。
24. インストールが完了すると、再起動するよう要求されます。「**OK**」をクリックして続行します。
25. 「**Reboot Now**」を選択して、「**Finish**」をクリックします。
26. コンピュータが再起動したら、管理者としてログインし、Windows の「スタート」メニューを使用してインターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーを見つけます。
27. IIS マネージャーがロードされたら、DIVAdirector をインストールするコンピュータのコンピュータ名をクリックし、次に「**サイト**」、「**DIVAdirector 5**」の順にクリックします。
28. DIVAdirector 5 の Web サイトが動作していることを確認します。そのためには、画面の右側にある「**開始**」ボタンが無効になり (グレイ表示され)、サイトが動作中であることを示していることを確認します。

3.4. オプションの手動調整

このセクションでは、ディスクの空き容量が不足してきた場合にシステムを調整するための手順について説明します。

3.4.1. DIVAdirector データベースファイルを再配置する

データベースファイルは、インストール後に必要に応じて別のストレージシステムに移行できます。DIVAdirector データベースを別の場所に移行するには、次の手順を使用します。

1. DIVAdirector Server サービスを停止します。Windows タスクマネージャーを使用して、実行中の DIVAdirector プロセスがないことを確認します。
2. Windows サービスの管理ウィンドウで PostgreSQL サービスを見つけます。PostgreSQL サービス名のフォーマットは *postgres-[platform]-[version] - PostgreSQL Server [version]* です。たとえば、*postgres-x64-9.2 - PostgreSQL Server 9.2* です。
3. Postgres サービスを停止します。Windows タスクマネージャーを使用して、実行中の Postgres プロセスがないことを確認します。
4. PostgreSQL サービスのレジストリ設定を次のように変更します。
 1. Windows のレジストリエディタを開き、*HKEY_LOCAL_MACHINE/SYSTEM/CurrentControlSet/services* に移動します。
 2. このキーの下に Postgres サービスのキーがあります。そのキーには手順 2 で見つけたサービスと同じ名前が付いています。そのキーに移動します。
 3. 「**ImagePath**」値をダブルクリックし、「*-D path*」設定を見つけます。このパスを新しい場所に変更します。パスに空白が含まれている場合は、そのパスエントリを引用符で囲みます。
 4. 変更した設定を保存します。
5. DIVAdirector データベースの場所のレジストリ設定を次のように変更します。
 1. Windows のレジストリエディタを開き、次のように適切なレジストリキーに移動します。

32 ビットシステム

HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Front Porch Digital Inc./DIVAdirector/DB

64 ビットシステム

HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Wow6432Node/Front Porch Digital Inc./DIVAdirector/DB

2. レジストリ値 *PostgresDB* を新しいデータベースディレクトリの場所に変更します。

6. Windows サービスの管理ウィンドウがまだ開いている場合は、それをいったん閉じてからまた開きます。
7. PostgreSQL サービスを再起動します。
8. DIVAdirector Server サービスを再起動します。

3.4.2. ネットワーク接続ストレージ (NAS) をプロキシファイルストレージフォルダに使用する

プロキシファイルストレージフォルダは非常に大きくなる場合があるため、内部のサーバストレージに格納したり、外部の (大容量) ネットワーク接続ストレージ (NAS) アレイに配置したりできます。共有ネットワークフォルダを指すプロキシストレージの場所を新しく追加する必要があります。プロキシストレージの場所を新しく追加する手順については、『*Oracle DIVAdirector 管理者ガイド*』を参照してください。ネットワークパスは、次の UNC フォーマットで指定する必要があります。

```
//hostname/sharename/subfolder/.../subfolder
```

Microsoft Windows のローカルシステムアカウントは、ネットワークリソースへのアクセスが制限されるため、代わりに専用のユーザーアカウントを使用する必要があります。そのアカウントには、NAS 上の Proxy フォルダを読み取るための権限も付与する必要があります。Proxy フォルダは、DIVAdirector Server を実行しているユーザーアカウントが Proxy フォルダへの書き込みを行えるように構成する必要があります。

こうしたアカウント設定を簡略化するために、DIVAdirector Web Server サービスの実行と、DIVAdirector サーバーとの対話型セッションの実行に同じアカウントを使用できます。このアカウントには、NAS 上の Proxy フォルダにアクセスするための読み取りおよび書き込み権限を付与する必要があります。また、DIVAdirector Web Server サービスを実行するユーザーアカウントは Administrators グループのメンバーになっている必要があります。このサービスは通常、*Program Files* フォルダにアクセスできる必要があるからです。

マップされたドライブ文字 (*K:/Proxies* など) を含むパスの使用がサポートされていないことを理解することが重要です。このパスは、ユーザーの要求に応じて DIVAdirector Web Server がプロキシファイルを開くために使用するからです。サービスとして動作する Web サーバーは、マップされたネットワークドライブを認識していません。これらは対話型ユーザーセッションに関連付けられているからです。

注記:

アカウントの構成手順については、『*Oracle DIVAdirector 管理者ガイド*』を参照してください。

3.4.3. ネットワーク接続ストレージ (NAS) をバイナリストレージに使用する

バイナリストレージは非常に大きくなる場合があるため、必要に応じて NAS アレイ上に配置することもできます。共有ネットワークフォルダを指すように DIVAdirector のバイナリストレージ仮想ディレクトリを再構成する必要があります。DIVAdirector バイナリストレージ仮想ディレクトリの構成手順については、『*Oracle DIVAdirector 管理者ガイド*』を参照してください。

ネットワークパスは、UNC フォーマットで指定する必要があります。例:

```
//hostname/sharename/subfolder/.../subfolder
```

このサービスの実行に使用される DIVAdirector Web Server ユーザーアカウントには、NAS 上の Binary Storage フォルダの読み取りおよび書き込み権限を付与する必要があります。DIVAdirector Web Server サービスを実行するユーザーアカウントは Administrators グループのメンバーになっている必要があります。このサービスは通常、Program Files フォルダにアクセスできる必要があるからです。

注記:

アカウントの構成手順については、『*Oracle DIVAdirector 管理者ガイド*』を参照してください。

3.5. DIVAdirector 4 から DIVAdirector 5.3 へのアップグレード

既存の DIVAdirector 4 システムをアップグレードする場合は、[DIVAdirector の前提条件](#)で示したいずれかのオペレーティングシステムが動作している必要があります。

DIVAdirector 4 から DIVAdirector 5.3 にアップグレードするには、次の手順を使用します。

1. アップグレードプロセスを開始する前に、データベースの完全バックアップを既知の場所に作成します。これは DIVAdirector 4 Web インタフェースを介して実行でき、*.LHB* ファイルが作成されます。あるいは、DIVAdirector CMS Database

Server サービスを手動で停止してから、データベースフォルダのコンテンツ全体を外部のドライブまたはフォルダにコピーします。

2. インストーラを実行し、「**Install**」をクリックして続行します。
3. インストーラでは最初に、*Windows* デスクトップエクスペリエンスまたは *Windows Media Player* がインストールされているかどうかをチェックします。これらのいずれかが見つからない場合は、そのアプリケーションがインストールされます。インストールを続行するには、コンピュータの再起動が必要になります。
4. コンピュータが再起動されたら、ドロップダウンリストを使用して「**Type of Install**」として「**Upgrade DD4 to DD5 Server**」オプションを選択し、「**Next**」をクリックします。
5. これ以降は、DIVAdirector を新しいシステムにインストールする場合と同じ手順に従います (「[新しいシステムへのインストール](#)」を参照)。

第4章 DIVA Transcode Service

この章では、DIVAdirector 5.3 で導入される新しい DIVA Transcode Service について説明します。

4.1. 概要

Oracle DIVAdirector 5.3 では、新しいトランスコードサービスをシステムに導入しています。このサービスには、2つの主要コンポーネントが含まれています。1つ目のコンポーネントは、要求の送信と表示、および現在構成されているトランスコード情報(名前、バージョンなど)の表示を行う RESTful API です。2つ目のコンポーネントは、すべてのアクティブなトランスコード要求の進行状況と状態を更新するために定期的に実行される時間ベースのバックグラウンドプロセスです。

ルートパスは、現在構成されているトランスコード実装サービスが読み取ることのできる場所を指している必要があります。ただし、新しいトランスコードサービスではその場所への読み取りアクセスは必要ありません。新しいトランスコードサービスとトランスコード実装との違いを明確にするために、トランスコードサービスでは複数のトランスコード実装 (Vantage、FlipFactory など) に対して1つの共通インタフェースを提供します。トランスコード実装 (Vantage サービスなど) では、ルートパスへの読み取り権限が必要です。

トランスコードサービス API は、自己ホスト型 [Open Web Interface for .Net \(OWIN\)](#) アプリケーション内にあり、Windows サービスに含まれています (IIS への依存関係はすべて削除)。要求の情報は、サービスインストーラを使ってインストールされた SQL Server Express LocalDB データベースに保持され、共通インタフェースを介してデータレイヤーによってアクセスされます。

トランスコードサービスを使用するには、ユーザーが要求の送信時にソースまたは宛先として **transcodeSvc** を選択します。新しいトランスコードサービスを正しく構成するには、「Source Name」が DIVAdirector の「**TranscodeSourceDestName**」構成値と一致する必要があり、「**Connect Options**」のエントリに「**tr**」フラグ (「**tr_restore_format**」や「**tr_names**」など) が含まれてはいけません。

4.2. Web 構成ファイル

新しいトランスコーダサービスでは、DIVAdirector Web の構成にいくつかの変更を行う必要があります。Web 構成ファイルは、インストール先の `www` フォルダにあります。たとえば、`C:/Program Files (x86)/DIVAdirector 5/www/Web.config` です。

設定の更新は次のとおりです。

DIVArchive Web Services (WS) Endpoint

WS エンドポイントを使用可能な任意のポートに構成できます。

```
<add key="DIVArchiveAPIUrl" value="http://10.80.106.57:9763/services/DIVArchiveWS_REST_2.1/" />
```

appname

これは、DIVArchive WS API インタフェース内に登録されるアプリケーションの名前を識別します。具体的には、`registerClient` メソッドに渡される `appName` パラメータの値です。これは、DIVArchive WS API とのインタフェース接続の前に必要です。例:

```
<add key="appName" value="DIVAdirector" />
```

TranscodeSourceDestName

これは、事前に構成されたソースまたは宛先の名前を識別するもので、DIVAdirector がトランスコーディングサービスでプロキシを作成するために使用する DIVArchive の復元場所を定義します。

```
<add key="TranscodeSourceDestName" value="transcodeSvc"/>
```

4.3. Windows サービス

Web アプリケーションと一緒にインストールされる DIVAdirector の Windows サービスは、Web 要求のコンテキスト外で実行されるバックグラウンドタスク (プロキシの作成、メタデータの抽出、ドロップフォルダのモニタリングなど) を処理します。Windows の管理コンソールには、レガシーサービスが *DIVAdirector Server Service* として表示されます。

バックグラウンドタスクの機能は、レガシーサービスから新しいサービスに移行中です。新しい *Oracle.DIVAdirector.TaskManager* サービスは現在、その機

能の一部にしか対応していないため、レガシーサービスが完全に移行されるまで、DIVAdirector インストーラによって両方のサービスがインストールされます。

Oracle.DIVAdirector.TaskManager サービスの構成ファイル (*Oracle.DIVAdirector.TaskManager.exe.config*) は、*C:/Program Files (x86)/DIVAdirector 5/TaskManager/* フォルダにあります。

この構成ファイルには、下記のように、注意を必要とする 4 つの主要セクションがあります。

1. DIVArchive Web Services API REST エンドポイントの構成

<appSettings> セクションでは、4 つの設定を構成する必要があります。

applicationName

これは、WS API インタフェース内に登録されるアプリケーションの名前です。具体的には、*registerClient* メソッドに渡される *appName* パラメータの値です。これは、WS API とのインタフェース接続の前に必要です。

```
<add key="applicationName" value="app name" />
```

locationName

これは、クライアントを実行しているコンピュータがある物理的な場所を識別します。具体的には、*registerClient* メソッドに渡される *locName* パラメータの値です。これは、WS API とのインタフェース接続の前に必要です。

```
<add key="locationName" value="location name" />
```

processID

これは、クライアントアプリケーションの登録に使用するプロセス ID 番号を識別します。具体的には、*registerClient* メソッドに渡される *processID* パラメータの値です。これは、WS API とのインタフェース接続の前に必要です。

```
<add key="processId" value="1234" />
```

DIVArchiveApiUrl

これは、WS API REST エンドポイントを識別します。エンドポイントには、使用可能な任意のポート番号を使用できます。

```
<add key="DIVArchiveApiUrl" value="http://10.80.106.57:9763/services/
DIVArchiveWS_REST_2.1/" />
```

2. Transcoder Service アクセスの構成

<*TranscodeSettingsConfigurationSection*> セクションでは、3つの設定を構成する必要があります。

TranscoderClientSettings

TranscoderApiUrl は、トランスコードサービスの基本 API エンドポイントの URL です。オプションの整数 *LocationId* を *TranscoderClientSettings* に追加すると、デフォルトの場所をオーバーライドできます。

```
<TranscoderClientSettings TranscoderApiUrl="http://localhost:9876/api/">
```

PresetName

PresetName は、トランスコーダサービスのプリセット構成の名前です。プリセットとは、プリセット ID (Vantage のワークフロー ID など) に関連付けられた名前です。

```
PresetName="Default Video Proxy"
```

ProxyableFileExtensions

ProxyableFileExtensions は、サービスがプロキシの作成を試みる対象となるファイル拡張子のリストです。

```
ProxyableFileExtensions="mxf,lxf,avi,mpg,mpg, mov,mp4">
```

次のパラメータのリストは、*PresetName* によって定義されたプリセットワークフローに渡されます。必要に応じて、コードを変更することなくこのリストにさらにパラメータを追加できます。

```
<Parameters>
<Parameter Key="GenerateKeyFrames" Value="True" />
<Parameter Key="KeyframeCaptureInterval" Value="00:00:01:00@29.97" />
</Parameters>
```

3. タスクおよびタスク間隔の構成

次のタスクは、<*ScheduledTasks*> セクションで構成され、Windows サービスによって実行されます。これらのタスクのいずれかを無効にすると、機能が失われます。一方、*IntervalInSeconds* パラメータで間隔タイマーを調整すると、パフォーマンスを向上させることができます。

TranscodeOnRestoreCompleteTask

このタスクは、(DIVArchive Web Services (WS) API REST エンドポイントを介して) DIVArchive の復元要求の進行状況をポーリングし、完了次第トランスコード要求を開始します。このタスクは、プロキシ作成サービスの呼び出しも行います。

```
<ScheduledTask Name="TranscodeOnRestoreCompleteTask" Type="Oracle.DIVAdirector
.TaskManager.Tasks.TranscodeOnRestoreCompleteTask, Oracle.DIVAdirector
.TaskManager" IntervalInSeconds="10" Enabled="true" />
```

UpdateRequestsStatusTask

このタスクは、DIVArchive のアクティブなすべての要求の状態および進行状況をモニターして更新します。

```
<ScheduledTask Name="UpdateRequestsStatusTask" Type="Oracle.DIVAdirector
.TaskManager.Tasks.UpdateRequestsStatusTask, Oracle.DIVAdirector.TaskManager"
IntervalInSeconds="10" Enabled="true" />
```

4. Postgres データベース通信の構成

この接続文字列には、DIVAdirector Web アプリケーションの web.config ファイルで定義されている接続文字列と同じサーバーおよび資格情報を使用するようにしてください。

```
<connectionStrings>
<add name="DIVAdirectorContext"
connectionString="Server=localhost;Database=DIVAdirector;User
Id=postgres;Password=Manager;" providerName="Npgsql" />
</connectionStrings>
```

4.4. データベース設定

警告:

オラクルでは、Oracle サポート技術者の立ち合いなしでこれらの変更を行わないよう強くお勧めします。

LocalDB に格納されている構成設定のうち、データベースの行を直接変更することでしか変更できないものがいくつかあります。

4.4.1. トランスコード設定

次のトランスコード設定は、データベース内で直接変更できます。

- **TranscoderSettings.Transcoder** には、トランスコードの現在の実装の名前が格納されています。このリリースでサポートされているトランスコードは Vantage のみです。
- **VantageSettings.Host** には、Vantage SDK サービスを実行しているコンピュータの名前が格納されています。
- **VantageSettings.Port** には、Vantage SDK サービスによって使用されるポート番号が格納されています。
- **VantageSettings.MetadataActionDescriptions** には、ジョブに関連付けられているメタデータ変数を公開する、Vantage ワークフロー内のアクションの説明が格納されています。

Id	Key	Value
16f4-39d2265688f7	TranscoderSettings.Transcoder	Vantage
f0cdb8f3-ff7b-4...	VantageSettings.Host	10.80.106.91
c4b7a91a-8c86-...	VantageSettings.MetadataActionDescriptions	Metadata1, Metadata2
b082e0fb-b038-...	VantageSettings.Port	8676

4.4.2. プリセット

プリセットテーブルには、トランスコード実装の内部ワークフロー識別子への名前付きマッピングが格納されています。Vantage の場合は、**InternalId** がワークフロー識別子です。

Id	InternalId	Name	Description	CheckStatusOnStartup
1	ea5e31dd-e0c7-4bea-9c01-cd27b4b7cf3e	Default Video Proxy	Default Video Proxy Description	True

CheckStatusOnStartup パラメータは必須プリセットを示すブールフラグであり、サービスの起動中にチェックされる必要があります。**CheckStatusOnStartup** が true に設定されていて、プリセットが見つからない場合は、警告が記録されます。**CheckStatusOnStartup** が true に設定されていて、プリセットが見つかったがアクティブでない場合は、サービスによってそのプリセットのアクティブ化が試みられます。トランスコードログファイルには、このチェックおよび試行されたアクティブ化のエントリが含まれています。

8/13/2015 11:03:53 ...	Debug	VantageTranscoder	13	Workflow: ea5e31dd-e0c7-4bea-9c01-cd27b4b7cf3e idle. Attempting to activate...
8/13/2015 11:03:54 ...	Debug	VantageSdk	13	Successfully activated workflow id: ea5e31dd-e0c7-4bea-9c01-cd27b4b7cf3e.

4.4.3. ロケーション

ロケーションテーブルには、事前定義された一連の出力ストレージロケーションが格納されています。トランスコードサービスでは、有効なストレージロケーションを持つジョブのみを受け入れます。トランスコード要求にロケーションが指定されていない場合、このサービスでは **IsDefault** (true に設定されている場合) を使ってロケーションの検索を試み、そのロケーションを使用します。ログファイルには、ロケーションが指定されなかったこと、および使用されたデフォルト値が示されます。

パス列には、ロケーションに関連付けられたパスが格納されています。この値によって、トランスコードされたジョブの基本出力パスが形成されます。パスの残りの部分は、トランスコードサービスから返されたジョブ ID によって形成されます。たとえば、ロケーションのパスが `//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/Dev` であり、トランスコードサービスからジョブ ID `6449d0db-2377-4e3d-a969-be09a742a63d` が返された場合、トランスコードされたファイルの最終的な出力パスは `//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/Dev/6449d0db-2377-4e3d-a969-be09a742a63d` になります。

4.5. API エンドポイント

データベースエントリを変更することによって構成する主要な REST エンドポイントが 2 つあります。

- `/api/transcoder` は、現在構成されているトランスコーダ情報を表示するために使用します。
- `/api/jobs/[jobId]` は、ジョブの進行状況を表示したり、新しいジョブを送信したりするために使用します。

4.5.1. 例 1

新しいトランスコードジョブを作成する場合、要求は次のとおりです。

```
HTTP POST to /api/jobs
{
  "inputFilePath": " //rootPath/InputFileMXF",
  "output":{
    "presetName": "Default Video Proxy",
    "parameters": [
      {
        "name": "GenerateKeyFrames",
        "value": "True"
      },
      {
        "name": "KeyframeWidth",
        "value": "128"
      }, ...
    ]
  }
}
```

要求への応答は次のとおりです。

```
201 Created
Headers:
... Location: http://localhost:9876/api/jobs/794660fe-2c37-491c-b7a9-7fe27f2c6346....
Body:
{
  "jobId": "794660fe-2c37-491c-b7a9-7fe27f2c6346",
  "internalId": "57d0a08b-fa5f-4ff7-8177-c1d2d4adf92a",
  "inputFilePath": "//rootPath/InputFileMXF",
  "outputFilePath": null,
  "status": 8,
  "createdDate": "2015-08-13T10:26:06.5553211-06:00",
  "createdBy": null,
  "updatedDate": "2015-08-13T10:26:06.5553211-06:00",
  "updatedBy": null,
  "progress": 0,
  "metadata": null,
  "output": {
    "id": 11,
    "presetName": "Default Video Proxy",
    "location": {
      "id": 1,
      "name": "Default Location",
      "path": "//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/Dev",
      "isDefault": true
    },
    "parameters": [
      {
        "id": 40,
        "name": "GenerateKeyFrames",
        "type": null,
        "value": "True"
      },
      {
        "id": 43,
```

```

        "name": "KeyframeWidth",
        "type": null,
        "value": "128"
      },
      {
        "id": 45,
        "name": "OutputFileName",
        "type": null,
        "value": "AA004001"
      }
    ]
  }
}

```

4.5.2. 例 2

すべてのジョブのサマリーを取得する場合、要求は次のとおりです。

HTTP GET TO /api/jobs

要求への応答は次のとおりです。

```

[
  {
    "jobId": "2ebbd1e9-b404-4909-944e-8d48c0a4b370",
    "internalId": "57d0a08b-fa5f-4ff7-8177-c1d2d4adf92a",
    "inputFilePath": "C:/Users/Administrator/Desktop/watch/AA004001.MXF",
    "outputFilePath": "//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/Dev/2ebbd1e9-b404-4909-944e-8d48c0a4b370/AA004001.mp4",
    "status": 6,
    "createdAt": "2015-08-13T10:26:06.557",
    "createdBy": null,
    "updatedAt": "2015-08-13T10:26:26.067",
    "updatedBy": "TaskManager",
    "progress": 100
  },
  {
    "jobId": "25970df1-7f60-4f65-8ee9-49b83b908364",
    "internalId": "44c54311-da47-443f-b7e2-21c56c247e0e",
    "inputFilePath": "C:/Users/Administrator/Desktop/watch/AA004001.MXF",
    "outputFilePath": "//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/Dev/25970df1-7f60-4f65-8ee9-49b83b908364/AA004001.mp4",
    "status": 6,
    "createdAt": "2015-08-13T10:19:26.28",
    "createdBy": null,
    "updatedAt": "2015-08-13T10:19:50.687",
    "updatedBy": "TaskManager",
    "progress": 100
  }
]

```

4.5.3. 例 3

ジョブの詳細を取得する場合、要求は次のとおりです。

HTTP GET to /api/jobs/794660fe-2c37-491c-b7a9-7fe27f2c6346

要求への応答は次のとおりです。

```
{
  "jobId": "794660fe-2c37-491c-b7a9-7fe27f2c6346",
  "internalId": "57d0a08b-fa5f-4ff7-8177-c1d2d4adf92a",
  "inputFilePath": "C:/Users/Administrator/Desktop/watch/AA004001.MXF",
  "outputFilePath": "//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/
Dev/2ebbd1e9-b404-4909-944e-8d48c0a4b370/AA004001.mp4",
  "status": 6,
  "createdDate": "2015-08-13T10:26:06.557",
  "createdBy": null,
  "updatedDate": "2015-08-13T10:26:26.067",
  "updatedBy": "TaskManager",
  "progress": 100,
  "metadata": "[{\"Key\":\"Container Format\",\"Value\":\"Material Exchange
Format (OP-1a)/\"},{\"Key\":\"Content Duration\",\"Value\":\"00:00:08:04@25/\"},
{\"Key\":\"Video Framerate\",\"Value\":\"25/\"},
{\"Key\":\"Header Timecode\",\"Value\":\"01:06:18:15@25/\"},
{\"Key\":\"OutputFileFullPath\",\"Value\":\"\\\\\\\\\\\\\\\\10.80.106.91\\\\\\\\c\\\\\\\\Users\\\\\\\\
Administrator\\\\\\\\Desktop\\\\\\\\output\\\\\\\\Dev\\\\\\\\2ebbd1e9-b404-4909-944e-8d48c0a4b370\\\\\\\\AA004001
.mp4\\\\\\\\\"}]",
  "output": {
    "id": 11,
    "location": {
      "id": 1,
      "name": "Default Location",
      "path": "//10.80.106.91/c$/Users/Administrator/Desktop/output/Dev",
      "isDefault": true
    },
    "presetName": "Default Video Proxy",
    "parameters": [
      {
        "id": 40,
        "name": "GenerateKeyFrames",
        "type": null,
        "value": "True"
      },
      {
        "id": 43,
        "name": "KeyframeWidth",
        "type": null,
        "value": "128"
      },
      {
        "id": 45,
        "name": "OutputFileName",
        "type": null,
        "value": "AA004001"
      }
    ]
  }
}
```

第5章 ShuttlePro V2 または ShuttleXpress コントロールパッドのインストールおよび構成

ShuttlePro V2 または ShuttleXpress コントロールパッドをセットアップして構成するには、製造元提供のソフトウェアに付属するインストーラを実行し、デフォルトの選択を使用してインストールを進めます。完了したら、次のように Shuttle 構成ファイルをコピーします。

Mac OSX の場合

C:/Program Files (x86)/DIVAdirector 5/Support/etc/Pref file - Mac/com.contourdesign.shuttle.prefs を *~/Library/Preferences/* にコピーします。

Microsoft Windows 7 の場合

C:/Program Files (x86)/DIVAdirector 5/Support/etc/Pref file - Windows/CDIshuttle.pref を *C:/Program Data/Contour Design* にコピーします。

注記:

Windows では、*Application Data* または *Program Data* パスを調べるために Folder Settings 内の隠しファイルを表示するには権限が必要です。

セットアップが完了したら、Shuttle Control を使用する前に、フォーカスをプレーヤーに設定する (プレーヤー領域で 1 回クリックする) 必要があります。

用語集

データストア	統合された一連のオブジェクトのデータリポジトリ。
プロキシ	DIVAdirector では、プロキシは Oracle DIVArchive にアーカイブされる低解像度バージョンのアセットを意味します。
ルート (スーパー管理者)	DIVAdirector のスーパー管理者は、システム管理に使用される特別なユーザーアカウントです。DIVAdirector では、このアカウントには <i>admin</i> という名前が付いています。このアカウントはユーザーのプロファイルに含まれている承認フラグで識別され、管理機能を実行できます。
汎用命名規則 (Uniform Naming Convention、UNC)	汎用命名規則には、共有ファイル、共有ディレクトリ、共有プリンタなどのネットワークリソースの場所を記述するための一般構文が規定されています。Windows システム用の UNC 構文には、一般的な形式 <code>//ComputerName/SharedFolder/Resource</code> があります。
Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)	Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) は、インターネットプロトコル (IP) ネットワーク経由で分散型のディレクトリ情報サービスにアクセスしたり、それを保守したりするためのアプリケーションプロトコルです。
Open Web Interface for .Net (OWIN)	OWIN は、.NET の Web サーバーと Web アプリケーションの間の標準インタフェースを定義します。OWIN インタフェースの目標は、サーバーとアプリケーションを切り離して、.NET Web の開発用に単純なモジュールを作成するよう働きかけ、さらにオープンスタンダードになることで、.NET Web 開発ツールのオープンソースエコシステムを促進することです。

索引

